

平成 20-21 年度共同利用・共同研究拠点公募プログラム研究  
「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」  
に関わる共同研究

## 研究成果報告書

大島 一（おおしま・はじめ）<sup>1</sup>

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所 コーパス開発センター プロジェクト奨励研究員

### 0. 基本情報

研究課題名：オーストリア・ブルゲンラント州におけるハンガリー人マイノリティ  
の言語的・社会的調査

申請者：大島 一（独立行政法人国立国語研究所研究開発部門言語資源グループ  
研究補佐員）<sup>2</sup>

### 1. 研究の概略と目的

- オーストリア・ブルゲンラント州におけるハンガリー語話者マイノリティの言語状況の記述
  - 【目的 1】：ドイツ語への言語シフト状況のため
    - ハンガリー語話者は若者をはじめとして急激な速度でドイツ語にシフトしつつあり、遅かれ早かれ、この地のハンガリー語話者は存在しなくなると言われる。こうした状況が現在においてもそうであるか否かを実際のフィールド調査により明らかにすること。
  - 【目的 2】：ハンガリー本国ではあまり注目されていない
    - ハンガリー本国におけるハンガリー科学アカデミー言語学研究所<sup>3</sup>では、ハンガリー語コーパス (Magyar Nemzeti Szövegtár)<sup>4</sup>が利用可能だが、これには国境外のハンガリー語話者のことばも採録されている。しかし、それは「2005 年 11 月において公開されたのは、スロヴァキア、ザカルパチア、トランシルヴァニア、そしてヴォイヴォディナ」（当 HP より）とあるように、オーストリア、すなわちブルゲンラント方言は未だ収録されていない。
  - 【目的 3】：その言語的特徴（「ゲルマニズム」）

---

<sup>1</sup> hoshima@ninja.ac.jp または、 hzsime@gmail.com

<sup>2</sup> 公募研究申請時の肩書。なお、2009 年 10 月に国立国語研究所は独立行政法人から大学共同利用機関法人人間文化研究機構に移管となった。

<sup>3</sup> <http://www.nytud.hu/>

<sup>4</sup> <http://corpus.nytud.hu/mnsz/>

- 当地におけるハンガリー語、つまりドイツ語の影響を色濃く残すと考えられるブルゲンラント方言の記述はハンガリー国内の標準ハンガリー語における「ゲルマニズム」の実態を明らかにする為に多大な寄与が得られると考えられる。

## 2. 研究の実際的内容

- 研究状況
  - 文献調査
    - 調査対象に関して、有名な先行研究である Gal (1979)<sup>5</sup>からデータを得た。また、Romaine (1994)<sup>6</sup>などを初め、言語社会的な側面から、オーストリアにおけるハンガリー語話者についての情報を集めた。
  - フィールド調査
    - 2009年8月31日から同年9月13日まで、現地調査を実施した。対象地はオーストリア共和国ブルゲンラント州オーバーヴァルト市、同州都アイゼンシュタット、そしてハンガリー共和国の首都ブダペストである。
    - オーバーヴァルトでは当地のハンガリー語話者の言語状況を調べるため、実際にアンケート・インタビュー調査を行った。これは先行研究 Gal (1979)より30年経った現在、ハンガリー語話者のドイツ語とハンガリー語の使用状況がどのように変化したかを明らかにするためである。また、調査にあたって尽力してくれた現地のプロテスタント教会牧師から情報収集、そして現地の研究所での文献収集も可能となった。
    - ハンガリーの首都ブダペストでは、ブルゲンラント州のハンガリー語話者を研究している研究者<sup>7</sup>と個人的に談話できる機会を持って、様々な情報を入手することが出来た。

※研究費は主にこのフィールド調査実現に使用した（詳細は以下の「4. 研究費内訳」を参照のこと）：

- インタビュー調査（録音機材など）
- 現地への渡航費、調査滞在費

## 3. 研究成果

- 大島 一, 2009. 「オーストリア・ブルゲンラント州のハンガリー語話者言語デ

---

<sup>5</sup> Gal, Susan. 1979, *Language Shift: Social Determinants of Linguistic Change in Bilingual Austria*, Academic Press.

<sup>6</sup> Romaine, Suzanne. 1994, *Language in Society: An Introduction to Sociolinguistics*, Oxford University Press.

<sup>7</sup> Szoták Szilvia. 2006, Az identitás 'morzsái'. Örvidéki civil szervezetek a magyar nyelv és kultúra fennmaradásáért, in Bakó Boglárka, Szoták Szilvia (eds.) 2006, *Magyarlakta kistérségek és kisebbségi identitások a Kárpát-medencében*, Budapest, Gondolat Kiadó, 209-224.

ータの保存に関する試み：電子コーパス構築における諸問題」, ウラル学会第36回研究大会(2009年7月11日. 於, 京都産業大学).

- 先行研究の Gal (1979)で言及されたブルゲンラント州のハンガリー語話者のハンガリー語・ドイツ語二言語使用状況をもとに, この言語状況がどのような社会的要因から生まれたかを説明した. また, ドイツ語への言語シフトから, ハンガリー語話者の消滅という状況を眼前にして, そのハンガリー語の維持を電子データ化, コーパス化に求めた.
- 『ウラリカ第16号』に応募予定(締切: 2010年3月末日)
  - 「共同利用・共同研究拠点公募プログラム研究報告会」(2010年2月18日, 於: 北海道大学スラブ研究センター小会議室)で報告した内容を元に論文投稿予定.
- 第11回国際フィン・ウゴル学会議(CIFU-11, 2010年8月9~14日, ピリスチャバ, ハンガリー共和国)で発表予定

#### 4. 研究費内訳

- 平成20年度における研究に関する申請内訳(20万円)
  - 現地調査のための機材購入
    - R-09HR (Roland) : ポータブルレコーダー
    - AT9941 (audio-technica) : マイクホン
    - HD 25-SP II (Sennheiser) : ヘッドホン
    - Adobe SoundBooth CS4 (Adobe) : オーディオ編集ソフト
    - GZ-HD300 (Victor) : ハードディスクビデオカメラ
    - Final Cut Express 4 (Apple) : 動画編集ソフト
    - SD-C04GT2 (東芝) : SDカード
- 平成21年度における研究に関する申請内訳(50万円)
  - ウラル学会研究大会(於: 京都産業大学)発表のため
    - 時期: 2009年7月11日~12日
    - 金額: 41,520円
  - オーストリア・ブルゲンラント州のハンガリー語話者現地調査のため
    - 時期: 2009年8月31日~2009年9月13日
    - 金額: 419,000円
  - 公募研究報告会(於: 北海道大学スラブ研究センター)のため
    - 時期: 2010年2月18日~19日
    - 金額: 39,480円

以上